

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099200026		
法人名	株式会社 よしなが		
事業所名	グループホーム マイライフ (うぐいす棟・うめ棟)		
所在地	〒822-1405 福岡県田川郡香春町大字中津原1965番地 Tel 0947-85-9623		
自己評価作成日	平成29年01月15日	評価結果確定日	平成29年03月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294
訪問調査日	平成29年03月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

玄関の真正面に香春岳を望み広々とした敷地内には100年は超えると見られる梅の大木やもくれん八重桜の木などが植えられている。園庭にて花見が出来る様にとの思いから1日の始まりはマイライフの基本理念を入所者と一緒に唱和する事から始まり、ラジオ体操・園内外の散歩を行い、温かい補コーヒーを飲む事から始まる。それぞれの入所者はホールにてパズル・読書・TV鑑賞・字の練習などそれぞれ好きな事をしながら過ごしています。毎日、食事前の口腔体操・おやつ前のレク(脳トレ・ことわざ)など入所者と一緒に楽しみながら頭の体操に頑張っています。出来るだけ、日中は布パンツ＋パットで済む様にトイレ介助や声掛けなどを行いトイレでの排泄を心がけています。気候を考えながら、近隣・遠方と考えながら外出の機会を作り気分転換を図っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

香春岳を目の前に望む郊外の広い敷地の中に、2ユニットのグループホーム「マイライフ」がある。瀟洒な造りの室内は、利用者の楽しい思い出の写真や、季節毎の作品を沢山掲示して、利用者はもちろん、訪れる人もほっとできるアットホームな雰囲気である。利用者と職員が声を合わせて基本理念を唱和する事から一日が始まり、体操、散歩、珈琲タイムと、職員の温かな声掛けの中で、その人らしい穏やかな暮らしが守られている。3名の医師による往診体制と、常勤看護師、介護職員の連携により、早期発見・治療に取り組み、安心の医療体制が整っている。利用者とは職員は、地域の行事や活動に参加し、ホームの秋祭りには、地域の方やボランティア、家族が集まり、年々地域交流の輪が広がっている。管理者の介護に対する熱い思いを理解した職員が、食事、入浴、排泄の支援に熱心に取り組み、自信を取り戻した利用者の明るい笑顔を見守る家族から驚きと感謝の言葉を頂き、ホームとの深い信頼関係が築かれ、今後、益々期待したいグループホーム「マイライフ」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、入所者と一緒に唱和している(入所者が日替わりで読む)理念の再確認を行う。	「マイライフの基本理念」を見やすい場所に掲示し、利用者と職員が毎朝一緒に唱和し、理念を共有している。職員は、理念を常に意識して、笑顔、優しさ、思いやりのケアの実践に取り組んでいる。また、地域の中でホームや利用者が孤立しないよう、地域との関係を密に図り、地域に根ざしたホームを目指し、日々努力している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	春の神幸祭り・秋のふれあいフェスタへの参加・子ども会の廃品回収への協力(新聞・雑誌・ダンボール・アルミ缶収集など)	利用者と職員は、地域行事への参加や廃品回収に協力する事で、地域の一員としての交流を継続している。また、初めて開催した、「マイライフ祭り」には、たくさんの方や家族の参加があり、楽しい時間を共有し、関係を深めている。日常的に、介護相談を持ち込まれる事も多く、地域から信頼されている事業所である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	香春町介護事業所協議会の役員を引き受ける。在宅介護者に対する介護技術講習会の開催の協力など			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	行政・地域包括・民生委員・区長・地域代表・入所者家族などの参加があり、サービスや行事報告などを行い入所者家族よりの声を聞いてもらえる場所である。また、今後のサービスへの取り組みについて意見交換の場でもあると考えている	運営推進会議を今年度は年5回開催し、ホームの運営や取り組み、課題等を報告し、参加委員からは、質問や要望、情報提供を受けて話し合い、サービスの向上に活かしている。「口腔ケアについて」等、毎回資料を基に、介護や健康について勉強会を実施し、参加者も知識を習得する場になっている。	2ヶ月毎に年6回の定期開催を目指し、会議を活かして、家族、地域、行政と共に、地域高齢者の問題を話し合ったり、認知症の啓発活動に繋げていく事を期待したい。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者は、運営推進会議などに参加して頂ける、その時や更新申請時に分からない事などの相談をしている	管理者は、疑問点や困難事例等を行政に相談し、利用状況、事故等の報告を行う等、密に連絡を取り合い、情報交換しながら連携を図っている。また、運営推進会議に、行政職員や地域包括支援センター職員が出席し、ホームの状況を伝え、アドバイスや情報提供を受けている。駐車場の提供や利用者の受け入れ等、協力関係を築いている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	基本的には身体拘束はしない方針であるが、転倒骨折のあった家族よりベット柵をして欲しいとの希望にて昼寝時・夜間の就寝時のみ行っている入所者がおられる。	職員会議の中で、身体拘束について勉強会を行い、定期的に確認する事で意識づけを行っている。禁止行為についての具体的な事例を挙げて検証し、職員一人ひとりが、拘束が及ぼす弊害について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフが虐待防止の研修会に行きミーティング時に研修報告を行い一緒に勉強会を行っている。資料作成			

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護・日常生活自立支援事業についても研修会に参加しミーティング時に勉強会を行っている(資料作成)	現在、制度を活用している利用者はいないが、職員会議の中で権利擁護の制度についての勉強会を実施し、職員は、制度の重要性を共通理解している。制度に関する資料、パンフレットを用意し、必要時には、関係機関と相談しながら、利用者の権利や財産が不利益を被らないように支援している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に、契約書にサインを頂く時に説明を行っている。法改正などで改定時には利用者家族に説明押印をお願いしている。また、締結・解約についても契約書の中の文章を再度説明をするようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議時に地域代表よりの意見などを参考にし運営に反映させている	職員は、日常生活の中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。家族には、最低でも月に1回は利用料支払のために足を運んでもらい、面会時や行事参加、電話連絡の中で、家族の意見や要望、心配事等を聴き取り、利用者の介護計画やホーム運営に反映出来るように取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフより希望のある時にはミーティング時社長・専務の出席をお願いし、スタッフの意見や提言を聞く機会を設けている。必ず回答は行う	毎月、夜勤者以外、全員参加の職員会議を18時半から開催している。皆で夕食を食べ、職員の意見や要望が出しやすい雰囲気の中で、活発な意見交換が行われている。会議の中で、カンファレンスや勉強会も実施し、職員間のチーム介護に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社全体の業績により給与水準を決めている為、職員の中には不満の声もあるが、処遇改善加算などで評価をし条件の整備に努めている。新年度より給与 について見直しを行うとの約束を職員に通達、その他の事については整備が出来ている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	スタッフの年齢・性別に係らず御本人のやる気があれば年齢は関係なく働いてもらっている。初めて介護の仕事を始めた方(72歳)介護の仕事が楽しいと初任者研修を受け1/21終了。80歳で毎月、夜勤10回頑張っている方もおられます。	職員の休憩室や休憩時間、希望休等に配慮し、職員が働きやすい職場環境を整えている。管理者は、職員の特技や能力を把握し、生き生きと勤務出来るよう配慮している。また、職員の募集は、年齢や性別、経験等の制限はなく、採用後は、それぞれのレベルに応じた研修に交代で参加してもらい、介護技術の向上に取り組んでいる。定年制を定めておらず、自分が働けると思えばいつまでも頑張れる環境である。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権学習などの研修があり、皆で考え取り組んでいる	行政主催の人権研修会に参加し、利用者の尊厳を守る介護の在り方を学ぶ機会を設けている。利用者の人権を尊重するために、利用者一人ひとりの価値観や生活習慣を把握し、それぞれに合わせた声掛けや対応に取り組み、利用者が安心して穏やかに生活出来る環境を目指している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの 実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける 機会の確保や、働きながらトレーニングしていく ことを進めている	法人内部及び外部研修への参加の機会を確保 し、研修報告をする事でスキルアップに繋がると考 える。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する 機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互 訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上さ せていく取り組みをしている	事業者連絡会の中で同業者間の交換研修を行い お互いの良い所を取り入れたいと思った(研修報 告より)		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本 人の安心を確保するための関係づくりに努めて いる	家族はもとより入所者との信頼関係づくりはコミュ ニケーションを取り、情報を収集する事から始ま ると考えている。入所者年表などを活用する。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困ってい ること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、 関係づくりに努めている	担当ケアマネよりの情報を元に足りない所は、情 報収集を行い必要としている事、不安に思ってい る事などを聞き共に傾聴することで信頼関係の構 築		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が 「その時」まず必要としている支援を見極め、他 のサービス利用も含めた対応に努めている	居宅ケアマネよりの紹介が主となっている為、前ケ アマネよりの情報や家族からの情報を元に必要で あれば、他のサービス利用の対応も検討する。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におか ず、暮らしを共にする者同士の関係を築いてい る	入所者との係る時間を大切にす為業務などの変 更を臨機応変に行っている。昔の歌など入所者よ り教えてもらう事もある。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におか ず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本 人を支えていく関係を築いている	入所者は、殆ど家族と過ごしたいと考えている。外 出可能な家族については、一緒に外出をお願いし 食事なども共にして頂くことも有る。(帰りの時間な ども制限することなく家族に任せている)		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所されている方の家族により「面会に行くと帰りたいくなるので出来るだけ行かないで欲しい」と言われる家族もおられるが、面会に来てくれる事で友人の顔や名前を思い出し楽しい時間を過ごす事が出来るので家族に了解を頂いても面会にこれる状態を作っている。	利用者の友人、知人、家族、親戚等の面会を歓迎し、ゆっくり話が出来る場所やお茶等を提供し、訪問し易い雰囲気作りに努めている。また、家族の協力を得て、自宅への一時帰宅や、馴染みの場所への外出等、利用者が長年築いてきた馴染みの人や地域社会との関わりが、ホーム入居で途切れないように取り組んでいる。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者は皆さん個性があり、テーブルの位置や座る位置などを決めるのがとても大切である。場合によってはトラブル事などがあり、お互いが気持ちよく生活出来るように配慮している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退所された家族の方より連絡を頂いたり、ご本人は退所されたが娘さんにヘアカットをお願いし、相談や今後の事についての支援なども行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日課にとらわれず御本人の意思がはっきりされている方は、御本人の意思を大切にしている。(買い物支援)	日常生活の中で、職員は利用者の話をゆっくりと聴く機会を設け、利用者の思いや意向の把握に努めている。元気な利用者が多いので、利用者の、希望や要望を聴き取り、職員間で話し合い、思いが実現できる取り組みを行っている。また、家族と相談し、利用者の思いを汲み取る努力をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時や入所後に、家族やご本人より情報提供をお願いしたり、コミュニケーションの中から聞き出すようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日課として決まったものはあるが、個々の身体状況などを把握し個別ケアを出来る様にしている。(残存能力を活かし出来る事はお願いしている)		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族を交えての担当者会議は困難な方が多いが、面会時にプラン変更やモニタリングなどの報告を行い了解を頂いている。介護計画の見直しなどは、1回／月のミーティング時にスタッフの声を聞き介護計画の変更やモニタリングを行っただけ。	利用者や家族とコミュニケーションを図り、意見や要望を聴き取り、カンファレンスで職員間で意見を出し合い、利用者一人ひとりの状態に合わせた介護計画を3ヶ月毎に作成している。また介護計画の実施状況や目標達成状況を確認し、その結果を踏まえて介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	身体的な情報(バイタル・排泄・水分・入浴)の記録も簡素化し、受診情報・薬情報・介護計画・申し送りノートなどには必ずサインをし情報の共有を行っている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況を把握し、固定化せず必要な時に必要なサービスを行っている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の社会資源が把握出来ていなかったが、事業者連絡会などに参加する事で今後必要と思われる地域資源の提案などをする事で少しでも楽しみながら生活が出来る事を支援していきたい		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医が3箇所あり、以前からのかかりつけ医との関係性を保ちつつ、受診の時間短縮・個々の病状や緊急時の対応・見取りについてなどの話し合いなども行っている。	入居時に利用者や家族の希望を聞いて、それぞれの主治医を決めている。以前からのかかりつけ医の往診体制と、毎月2回の往診が出来る協力医療機関を主治医としている。主治医とは密に情報交換を行い、関係を築き、利用者の医療情報を共有し、安心して適切な医療が受けられるように支援している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者の状態を一番良く把握しているのは介護職だと考えている。少しでも異常があれば申し送り看護師や異常時は訪問看護師に連絡を行いDRよりの指示をいただく様にしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入所者様の入院前の情報を提供する事で、検査の簡素化や状態を把握できる。入院中は、面会に行き状態を聞く。リハビリや退院時期などの相談に努め、早期の退院が出来る様にしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族には説明をしているが、入院などされた時に再度説明をしている。家族より延命治療をしないとの希望がある入所者については、往診医に報告をしている。当施設では、医療行為必要に成れば、同系列の有料老人ホームや新設の見取り施設での入所を勧めている。(家族より次の施設を探さなくて良い)	契約時に重度化や終末期を迎えた時に、ホームで出来る支援について説明し、利用者や家族の承諾を得ている。利用者の重度化に伴い、家族と密に話し合い、主治医も交えて方針を確認し、看取りが出来る系列施設での受け入れや、症状によっては病院への転院等を検討しながら、ホームで出来る範囲まで暮らせる支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時(病気)に対してのマニュアルを作成している。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災時のみの訓練は2回／年行っているがその他の災害についての訓練は行っていない。マニュアルは作成しスタッフがいつでも見れるようにしている。近隣の方より、台風時に数人の高齢者の受け入れが可能かとの意見などもあり。出来るだけの協力が出来る様にしている	消防署の協力と指導を得て、年2回防災訓練を実施し、通報装置や消火器の使い方、避難経路、非常口、避難場所を確認し、利用者全員を、安全に避難誘導出来る体制を整えている。また、運営推進会議の委員を通して、非常災害時に地域住民による見守り等の協力要請をしている。非常食の備蓄と、医療情報をすぐに持ち出せるよう準備をしている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に言葉遣いについては、日々スタッフがお互いに気にかけて注意などを行っている。	利用者一人ひとりのプライバシーを尊重する介護について、会議の中で職員間で話し合い、本人の生活歴を知るための「生活年表」を作成し、コミュニケーションをとりながら、言葉遣いや対応に注意し、尊厳のある暮らしの支援に取り組んでいる。また、利用者の個人情報取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が職員に説明し、情報漏洩防止の徹底に取り組んでいる。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その都度、声掛けにて希望を聞いたりゆっくり考えてもらい自己決定できるようにしている。(園内での行事には皆さん参加だが、園外への行事には御本人の希望を重視している)		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スタッフの都合を優先するのではなく入所者優先する事を、機会があるごとに申し送りをしている。(慌てずゆっくり待つ心が大切である)		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人で準備が出来ない方は、スタッフが洋服の準備をしている。外出や行事の時等は、特に身だしなみに注意している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	通常は、出来たものを盛り付けるだけの作業なのでスタッフが行う。日曜日のみ園で作っているの、野菜の皮むきなどの手伝いをして貰ったり、トレイ拭きなどの手伝いをしている。	カロリー計算や栄養バランスの摂れた食事を、系列施設厨房からの配食サービスで提供している。検食による意見や要望を随時挙げて改善を重ね、美味しい食事の提供に向けて取り組んでいる。朝食と日曜日はホームでの食事作りとなるため、利用者の能力に合わせて、買い出しや野菜の皮むき等の準備を一緒に行なっている。手作り弁当を持つての外出等、食べる事を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量はチェック表にて把握できている。水分制限のある入所者なども時間を決め摂取して貰っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食前の口腔体操・食事後の口腔ケア(ハミングッドH使用)・訪問歯科医による口腔内チェックをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼間は、殆どの入所者は布パンツ+パット対応にて、排泄を行っている。尿意のある方については、御本人の訴えある時にはトイレ介助・時間毎のトイレの声掛けを行いトイレでの排泄を行っている。	自立支援に向けた排泄支援を行い、利用者一人ひとりに合わせ、積極的にオムツ外しに取り組んでいる。トイレで排泄することを基本とし、職員は、利用者の排泄パターンや習慣をチェック表で把握し、早めの声掛けや誘導で、自立に向けたトイレでの排泄の支援に取り組んでいる。夜間もトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	殆ど便秘にてコントロールが大変である。便秘薬処方にて排便ない方に対しては(一3)テレミン挿肛似て排便促す。排便困難者については、朝の冷たい牛乳を飲用。日課の中に散歩やリハビリ体操などを取り入れている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は決まっているが御本人の気分で入浴拒否や入浴困難な時には御本人の希望する時間(1番風呂希望・入りたい時に事故にて洋服を脱ぐ行為ある時)など曜日や時間に捉われる事無く入浴を支援している。順番のくじを引いてもらうなどぬ満のでないようにしている。	利用者のその日の体調や希望に合わせて、気持ち良く入浴が出来るよう配慮している。一番風呂が好きな方、長湯や熱い湯が好みの方等、出来るだけ配慮しながら、職員と利用者がゆっくり会話しながら、楽しい入浴支援に取り組んでいる。入浴を拒む利用者には、無理強いせずに清拭や足浴に変更している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	時間対に捉われず御本人の体調や、御本人の休息したい時には自室にて休息してもらっている。夜間など巡視時に不安を訴える方などに対しては声掛けをしたり、暫く自室にてスキンシップを取ることで安心して眠れるようにしている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の処方薬についての説明書・副作用などの記載内容の分かるものを スタッフに渡しサインをする。処方薬についての変更や臨時薬などについても同様。かかりつけ医・調剤薬局・スタッフとの連携もとれるように状態変化などを記録している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴などをスタッフが把握している。係わりの中で嗜好品・楽しみごと・出来る事などは積極的に取り入れ気分転換が図れるようにしている。(TV鑑賞・カラオケ・読書・おしゃべり・散歩など)		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域のの人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に外出・外食や地域の方	天気の良い日を利用して、毎朝ラジオ体操の後に散歩をするのが日課となっている。手作り弁当を持っの紅葉狩り、花見帰りに道の駅に寄っておやつを食べて帰ったり、ファミリーレストランでの外食等、利用者の気分転換に繋げている。また、家族と一緒に出掛ける外出や外食も、利用者の大きな楽しみとなっている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、入所者はお金を持たない事になっているが2名ほど家族よりお金を貰い、自分のほしいものを買い物希望があり、スタッフと一緒に買い物に出かける事もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人よりTELをしたいとの希望ある時にはいつでも対応出来る様にしているが遠慮をする事がある(スタッフが代理にてTELする事もある)帰宅願望の強い入所者に対しては内線にて対応。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとの飾りつけや行事・外出時の写真などを廊下の空間に張っている。園内散歩時には写真を見るのを楽しみにされている入所者もいる。	ゆとりのある造りの建物の室内は、折り紙等による季節の作品や、利用者の笑顔の写真が飾られ、家庭的で温かな雰囲気での共用空間である。地熱発電を利用した床暖房でホーム全体が温かく、天窓からの太陽の日差しを受けて、換気、温度調節に気を配り、清掃や整理整頓を徹底し、利用者が安全に心地よく暮らす事が出来る環境を整えている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファに座りながらの雑談・園庭のテーブルにてコーヒータム・台所でのトレー拭きをしながらの世間話の場所		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	必要なものは、以前使っていたものを持って来て頂く様にしているが、家族によっては新しいものを可って持ってくる方もおられる。	利用者の馴染みの家具や身の回りの物、大切な物等を、家族の協力で持ち込んでもらい、生活環境が急変しないよう、出来るだけその方らしい居室となるように工夫している。家族が訪問した事を忘れないように、来訪時に写真を撮って壁に貼る等、利用者の記憶の呼び起こし、家族や関係者との関わりを大切にしている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレ・浴室などは分かるように大きく書いて駆りつけている。自室の電気の使い方・トイレの電気が自動で消灯出来る事を理解出来ない事があるので神を貼り付けている。		